

不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなく



大古精機(栃木県さくら市、大古秀子社長、028・682・3161)は、測定員や精密部品、治具などを手がける。同社の「OKS」ブランドのゲージは、長年モノづくりの現場で使用されている。創業から85年にわたって事業継続できた理由を、大古社長は「時代に沿って技術をアレンジしながら、高品質を追求してきた姿勢が顧客の信頼につながった」と強調する。

大古精機 (栃木県さくら市)

中長期の成長見据え人づくり

東京都板橋区に本社を設けた。60年には栃木県氏家町(現さくら市)へ進出し、測定員の製造に不可欠な高精度加工技術を磨いた。順調に実績を上げていたが、当時は技術者の独立が相次ぎ、教習所」と言われていたという。しかし独立した元従業員とは協力関係を続け、現在まで同社の製品づくりを支えている。

総務・経理を手がけていた大古社長は先代の急逝で2006年に就任した。その後、リーマン・ショック後の不況に直面。受注不振が続く中、「総務・経理出身だからこそできることがある」(大古社長)と一念発起し、勤務体系の見直しや経費節減などに着手した。一連の取り組みが次第に実り業績は回復し、苦境を乗り越えた。

12年からは地域でいち早く健康経営に取り組み、喫煙者の「禁煙外来」などへの援助や従業員の健康診断受診を推進。65歳以上でも働き続けられる体制を整えた。国家資格の取得も積極的に支援している。大古社長は「高度な技術を持つ人が長く現場に携わり、人材育成や技能継承に貢献する」というよい循環が生まれる」と語る。

20年度は数年ぶりに新卒2人を採用した。将来を見据え「若い世代が夢と希望を持てる会社になりたい」と(同)と決意を新たにしている。

従業員の技術を信頼している…と大古社長(手前)

【企業メモ】35年(昭10)に精密測定員の専門メーカーとして創業。60年に本社を栃木県に移転した。自動車やカメラ産業などで使用される各種ゲージ、精密部品、治具を展開する。経済産業省の「健康経営優良法人2020」認定企業。

映像を **ビジネスツール** に使いませんか?

夢をこの手で